

リニア岐阜県駅周辺エリアデザイン指針（デザインブック）案 パブリックコメント 意見まとめ

【コンセプトに係るご意見】		市の考え方
1	・リニア駅周辺のデザインコンセプトについてよく検討されており期待が出来る。	岐阜県・中津川市を象徴する「清流・街道」そして「道・辻」というデザインコンセプトを設定し、コンセプトに基づいて、千旦林川への動線や、街道の宿場町をモチーフとした自由通路などの各施設配置等を導いております。
2	・「清流と街道」や「道と辻」というコンセプトワードは良いが、道・辻に繋がる物語を感じさせる表現が必要。	
3	・街道の様な温かみや凹凸、曲がりのある楽しい空間ではなく、グラフィックデザイン的な都市的空間となってしまう。	
【施設配置・動線に係るご意見】		
4	・在来線の駅とリニア駅が離れすぎている。平面駐車場の位置に在来線の駅を移動させて、同じ建物の中で乗り換えができて利用者にやさしい施設としてほしい。	美乃坂本駅改修にあたって、駅位置を移動させることは費用と時間が非常に多くかかることが想定され、それによってリニア開業に整備が間に合わない可能性が高いため、駅位置の移動はしない中で、できるだけ乗り換えの移動の際にストレスの無いような設計を進めたいと考えております。
5	・賑わいが出てくるのには長い時間がかかり、即効性のある効果は期待できない。だからこそ単に繁盛すれば良いというのではなく、まず今この地域に暮らす人たちが豊かな心で過ごせる素晴らしい施設を作ることが大切。	リニアによってこの地を訪れる来訪者の方だけではなく、ここに暮らしている地域住民の皆様にとっても大切な場所として各施設の整備を行っていきたいと考えております。
6	・リニア駅からの二次交通の手段バス、タクシー、レンタカー、レンタルキャンピングカー等や、接続性を踏まえた駅周辺デザイン検討が必要。	デザインブックP19、P20に記載の通り、バス・タクシー・レンタカー等への乗り換えを想定し、二次交通への動線や乗降等も踏まえた駅周辺施設の配置計画としております。
7	・駅から広がるまちへ、まちから駅へ繋がる岐阜県駅らしさが表現できていない。	リニア岐阜県駅周辺は、広域の交通結節点として駅周辺とそこから広がる動線等も重要視しており、既存道路とのネットワーク形成も含め、整備検討を行ってまいります。
8	・レンタカー、次世代交通インフラ等を整備する場合、外国人を含めた来訪者にわかりやすい交通動線やサイン等の整備が必要。	ユニバーサルデザインの観点から、誰にとってもわかりやすい動線やサイン等の検討を行ってまいります。
9	・観光バスの乗降場は2台とあるが、ともすれば通過駅の恐れがあり、少ないのでは。	現時点で想定される乗降客数等に基づいて駅前広場の乗降場数等を設定しておりますが、今後の駅利用者数の検討状況等を見据え、詳細が判明してきた時点で変更を行い、また、段階的に対応することも考えております。
【将来の土地利用に係るご意見】		
10	・地元物産販売施設の運営にぜひ関わりたい。	地元物産販売等の展開については今後の検討課題のひとつではありますが、具体化する際には地元の事業者等にもお声掛けをして進めたいと考えております。
11	・宿泊施設は誘致するのか、JRが建設するのか等の考えを知らせてほしい。	デザインブックP21の宿泊施設等を含めた周辺の土地利用につきましては、望ましいイメージとして記載したものであり、地権者の方の意向も確認しながら、今後検討を進める事項となります。
12	・立体駐車場の規模の考えはどうなっているか。	リニア岐阜県駅の利用者数推計を基に規模等を検討しております。今後具体的な駐車場整備方針を定めるにあたって、更に精度を上げて適正な規模等を検討したいと考えております。
13	・駐車場を駅のそばに作り、水平型エスカレーターなどで最短距離、最小歩数でリニアに乗車できるようにしてほしい。	乗り換えの歩行者動線等について、最短距離でスムーズに移動できるよう設計を進めております。現時点で水平型のエスカレーターの設置は想定しておりません。
14	・美乃坂本駅周辺で大きな駐車場を作してほしい。	利用者の利便性を考慮して、市としても駅に近接した場所に駐車場を整備する必要があると考えております。
15	・千旦林川親水公園のアクセスや、公園利用者の駐車場の規模、位置を明示してほしい。	P19の動線計画にある通り、リニア岐阜県駅からは徒歩等でアクセスすることができます。また、公園利用者の駐車場につきましては、デザインブックP21土地利用イメージの駐車場利用や、公園に近接する市有地の利活用も検討しております。

16	・土地利用に個性がないので日本中どこにもない駅としてほしい。	この地域の特性を活かし、他の駅周辺との違いを出せるようにしたいと考えております。
17	・大小の商業施設、宿泊施設、レストランやカフェなどに立地してもらえる見込みはあるか。	今後、民間活力の導入可能性を調査し、地権者の方の意向も確認しながら施設の立地等の見込みを立てていきたいと考えております。
18	・コンピューターソフトの開発や音楽・ゲームなどのエンターテインメント産業に従事し、その企画・設計をするような人材の移転・定住を前提とした都市設計をしてほしい。	リニア中央新幹線により、都市部からの移動時間距離が大幅に短縮することを踏まえ、その利便性を活かした移住定住等の施策を進めたいと考えております。
【岐阜らしさに係るご意見】		
19	・地域の産業の振興とアピールのためにも、地元の材料（特に東濃ヒノキ等の林材）の使用を主として進めてほしい。	この地域らしさの表現のためにも、ご意見の通り、東濃桧を始めとした木材や石材、その他地元の素材をできる限り使用して進めたいと考えております。
20	・近代的な建築物などよりも岐阜（中津川）らしく木材、石などを使ったデザインは大変良い。	
21	・東濃は焼き物文化（美濃焼）も盛んであるので、空間の要素に取り入れるも良い。	
22	・岐阜らしさについて、東濃桧の活用例も入れてほしい。	デザインブックP23に、東濃桧についての文章も記述いたします。
23	・岐阜らしさの表現において、東濃ひのき、飛騨の木材となっているが、国を挙げての木材事業であるCLTを駅舎に使用する提案などは出来なかったか。	デザインブックP23は岐阜らしさを表現するための主な方針をお示したものであり、使用する材料の具体的な検討については、今後引き続き進めさせていただきます。
24	・木材を内装には使用とあるが、目玉とする考えは。	木材の使用については、この地域の特色を表現する代表的な取り組みの一つとして考えております。
25	・材の利用については表面の仕上げや積み方、敷き方など様々あり、これまでの使い方にとらわれず、新しい使い方も含めて新時代への挑戦があるべき。	素材の使い方については、専門家の意見も伺いながら、これまでの使い方にとらわれず、効果的な使い方を模索したいと考えております。
26	・素材の使い方はダイナミックに、斬新に使い、新時代の取り組みを行って、岐阜・中津川をPRしてほしい。	そのなかで、素材の使い方も含めて、岐阜県らしさ・中津川らしさを表現したいと思います。
27	・中津川を素材で表現するのもよいが、周辺の風景と調和した開放的でのんびりした感じや、リニアを降りた時の千旦林川との調和した自然空間など、地方の良さをアピールする場が必要であり、素材の背景にある自然景観を活かしたデザインとしてほしい。	単に岐阜県の素材を使うということではなく、この地の風景を構成する様々な要素を考慮に入れつつ、この場所の良さを表現できるよう、素材の使い方を工夫したいと考えております。
28	・岐阜らしさは素材だけでなく、空間や風景、かおり、水のきらめき、すがすがしさなども重要。	
29	・岐阜県産出材の見本市ではなく、中津川産の素材を広く用いて全体を景観創出し、必要に応じてその部位の機能にも考慮して素材を用いてほしい。	
30	・中津川のうだつの上がる町並み、宿場町として賑わった雰囲気、五平餅や栗きんとんなどの食文化、木曾川や中山道の歴史など岐阜・中津川らしさを感じることができ、楽しむことができる場があると良い。	
31	・植栽については川の自然環境と合わせて生物多様性にとって大変重要である。樹木だけでなく草本類なども合わせて検討してほしい。	
32	・在来種を中心とし、近隣にある天然記念物「坂本のハナノキ自生地」との連携した森のある空間としてほしい。	植栽について、樹種や植え方の具体的な内容等については、今後さらに検討を行いたいと思います。
33	・中山道を彷彿とさせるシンボリックツリーがあっても良い。	
34	・樹木の生長には造成土では成長が良くないことが多いので、計画段階から植栽基盤を検討してほしい。	
35	・言葉を記したサインは、アイデアの一つとしては良いが、わかるのは来訪者の一部のみであるので、利用方法を案内サインなどに組み込んでどうか。	
36	・岐阜県産の素材や岐阜を見つける言葉を散りばめるといふ演出について、観光客が岐阜県産であることを認識したり言葉を探してまで読むと思えないが、どれだけの人が興味を示すと考えているか。	サインを自ら見つける楽しさという点から逆効果にならない範囲で、利用方法の周知も含め、どうすれば知っていただき、興味を持っていただけるか等を検討したいと思います。

37	・石材など地域の素材を用いても、素材が帰化植物に覆われているのは全く「清流の国ぎふ」の演出はできない。そうならないための帰化植物対策はどう考えているか。	帰化植物対策も含めた駅周辺施設等の管理について、民間活力の導入も含め、今後、具体的な手法等の検討を進めたいと考えております。
38	・岐阜県各地で生産される物を積極的に使用する案だが、破損した際の修繕費用が高額になる。新しく作る物品の維持管理をどうするか。	できる限り汎用的な物品を使用することで全体的な費用を抑えながら、限定的な場所やプロダクトでこの地を象徴する物品で効果的にPRできるよう検討します。
【施設デザインに係るご意見】		
39	・周りの風景に溶け込むようなデザイン的美乃坂本駅舎、千旦林川親水公園など、周りの自然に寄り添ったアイデアであり、デザイン完成の日が待ち遠しい。	周辺の自然を活かしたデザインとするよう検討を重ねており、今後の整備に向けて設計を進めたいと思います。
40	・中津川だけでなく、東海地方の玄関口となるような、日本や世界に誇れる設計デザインとしてほしい。	今回のデザイン指針策定にあたり、建築の専門家も検討チームに入って案を練り、デザイン会議において方針を検討していただいております。
41	・美術館のようなアートスペース、市民が利用できる図書スペース、子供や大人がゆっくりくつろげるカフェスペース等、市民の利用も考えて、建築家と意見をねってほしい。	今回のこの指針内容に沿って、今後具体的な建築の検討を進めることになり、その中で施設の使われ方や使用する素材、見せ方等を検討してまいります。
42	・木や竹をアクセントにしたモダンな建築としてほしい。地域のシンボルとなる様な、考え抜いて作られた建築にしてほしい。	
43	・著名な建築家に設計をお願いするなど、話題になればより注目度も上がるのではないかと。	
44	・中津川市に(株)グラウンドデザインの高山さんという建築家がいらっしゃるようだが、こういう方に意見を伺ってみてはどうか。	
45	・今の地方が抱える過疎化や人口減少の問題は、あと何十年後の都市部で起こりうる問題であり、今から中津川がやろうとしている地方活性化が、何十年後の都市部のロールモデルになるように、価値ある建造物となってほしい。	地方の一都市である中津川において、この地域を活性化する大きな機会としてのリニア駅周辺整備となります。身の丈に合った整備を行い、地方の価値をよく考え、持続的な発展につなげられるよう事業を進めたいと考えております。
46	・「(仮称) 飛騨高山大学」のように、地方に価値を見出す設計を考えてほしい。	
47	・田園が広がる地域に高さ30m程度のリニア高架橋の壁ができることになり、地域住民の日常的な眺望にも影響を与えやすいので、コンクリート高架橋の威圧感・重量感を軽減する配慮が必要。	リニア駅については巨大な構造物になることから、周辺の眺望等への影響はかなり大きいものと考えております。
48	・リニア駅のボリューム感が表現されておらず、大きな壁ができるので、すこしでも軽減できるような全体施設とバランスの取れた景観とし、表面の仕上げなどを検討すべき。	リニア駅舎自体はJR東海による整備となりますが、この地域の景観にマッチした周辺施設のデザインとするなど、リニア駅舎の影響をできるだけ軽減できるよう工夫したいと思っております。
49	・高架下通路については高く幅員も広く、橋脚に囲まれ、暗く、陰気な雰囲気となるため、高架躯体のデザインと合わせて協議すべきではないか。	
50	・植栽や大きな岩など、自然の中の見ごたえのあるものを設置するのでもいいのでは。	
51	・施設デザインが岐阜をイメージできる景観デザインとなっていない。	
【駅前広場に係るご意見】		
52	・駅前広場は広くて気持ちの良いスペースになると思うので、ここでイベントを開催したり地域と域外からの来訪者の交流が積極的に図られる企画にぜひ関わりたい。	デザインブックP62に記載したように、今後駅周辺を使うための会議を立ち上げることを検討しております。会議を組織することが決まりましたら、その際にはぜひご参加をご検討ください。
53	・恵那山の山頂から富士山が眺望できることについて、また、恵那山の由縁や歴史自然など、観光客を誘致できるようなアナウンスについて、取り組みを行ってほしい。	施設配置や周辺景観等について、この地を象徴する恵那山の眺望を大切に、恵那山へ観光客を誘致する施策等についても今後検討したいと考えております。
54	・「恵那山へとつながる軸」については、是非とも実現をお願いしたい。	
55	・恵那山への視線の道を維持してほしい。	
56	・恵那山がランドマークになるような配置を工夫してほしい。	
57	・来訪者も大切ですが、子どもたちを含めた若い世代の心に残る地域のイベントなどができ、地元の皆が集える駅前にしてほしい。	来訪者の方だけでなく、地域住民の皆様にも利用していただき、多くの人が集まれるイベント開催などが可能な駅前周辺整備を行いたいと考えております。

58	・北側ロータリーは南側と同様の景観にするのではなく笠置山やリニア車両を楽しめるような空間を創出してほしい。	リニア北側と南側については同じコンセプトとしておりますが、リニア北側では笠置山を始めとした周辺景観が広がり、リニア南側とは異なるものになると考えております。今後、それぞれの場所から見える景観や特色を踏まえた詳細な設計検討をいたします。
59	・北口駅前広場と中央駅前広場のデザインは、待合などの利用者目線で考えると、駅舎外の風景が異なっていた方が利用区間イメージとして分かりやすいので、デザインのモチーフやパーツなどは共通していても良いが、風景としては異なっていた方がよい。	
60	・都市部の駅のような人や車の流れは期待できず、利用者に見合ったスケール感が必要。	
61	・中央駅前広場が、駅と千旦林川を分断しており、駅から降りたら川を含めた自然が広がっている風景があるべきではないか。	
62	・交通機能の空間と景観・環境の空間が融合していないので、交通広場空間にも、景観環境が入り込んでくるべき。	リニア岐阜県駅周辺の利用者数は、東京や名古屋等の都市部とは大きく異なり、駅周辺の利用者数に合わせたスケール感の中で検討を行っております。
63	・中央駅前広場について、街道や清流の雰囲気を感じられない。	
64	・駅と河川を結ぶ動線が弱い。動線計画と合わせて、風景がどう見えてくるか連続的に考慮する必要がある。	
65	・イメージパースの通りであれば植栽で恵那山が見えないため、駅前に森がある風景から恵那山を主景としてはどうか。	
66	・木立を列植しては山並みの風景を遮断するので、ランダムにして林（森）のような空間としてはどうか。	駅と千旦林川をつなぐ動線の中で、歩行者動線を主として恵那山等の風景の見え方も考慮して検討を進めております。
67	・自然の風景の中であって、平坦な土地が広がると違和感があるため、アンジュレーションのある広場としてはどうか。	
68	・駅前広場は、災害時の一時避難所としても利用できるようにしてはどうか。	
69	・中央駅前広場は、実際はリニアの高架や線路向こうの建物などが見えてくると思われ、実際の写真でのイメージパースを作成すべきではないか。	
70	・乗換動線は移動を最小限とするようだが、最小限の接点でどのように交流や駅前の賑わいを生み出すのか。	植栽が恵那山への眺望を遮らないよう、また、植え方もランダムにするなど、周辺の景観と調和した空間にしたいと考えております。
【千旦林川に係るご意見】		
71	・千旦林川の河川改修案について大変感謝している。	千旦林川を改修し、かわまちづくりを行う中で、河川沿いの今後の利用や管理運営、保全等については地域の方にも一緒に検討をお願いしたいと考えております。
72	・千旦林川は防災機能や景観機能など重要な役割を果たし、歴史的資源も存在していて重要な軸線になるため、坂本まちづくり協議会と一緒にこの利用・保全方法の検討を希望する。	
73	・千旦林川が直線化された場合の上下流に与える環境面、水害対策、砂防等への配慮はされているか。	
74	・千旦林川の上流も見据えた計画でなければ親水公園とはならない。	
75	・千旦林川は駅前だけ護岸整備しても清流にはならないが、上流部も含めて清流化し、維持管理できる見込みはあるか。	
76	・自然景観と融合であれば、千旦林川の自然景観を保全、継承すべきで、現状の千旦林川の河道線形を継承して、この水軸から清流イメージを発展させることが必要。	
77	・千旦林川の現況イメージを少しでも残し、風景の継承と同時に、河川環境も豊かにしてほしい。	
78	・千旦林川はコンクリート護岸を用いた人工的な川とするのではなく、岐阜らしい川（多自然・近自然）とする方がよい。	

79	・背景の景観が不明確であり、広場と川とが繋がる空間づくりとなって無い。	デザインブックP45の人道橋を整備することで、駅前広場と親水公園を結び、回遊できる空間を想定しております。
80	・かわまちづくりの配慮について、河川空間とまち空間の融合した空間が提案されていない。ソフト面も含めてどう地域の資源を活かし、賑わいを創出し、民間活力が導入され、魅力的な水辺となるのか。	今回の河川整備について、かわまちづくりにどのように活かしていくか、今後地域の皆様や事業者等のご意見を伺いながら賑わいの創出、管理運営も含めた民間活力の導入について可能性を調査検討していきたいと考えております。
81	・千旦林川親水公園について、河川の考えから再検討し、かわまちづくりとしての人流や交流の場として、どう使われていくのかを説明する必要がある。	
82	・この場所で最も大切なことは、駅と千旦林川が一体となった新しい駅前空間。	
83	・駅を出てすぐに千旦林川の存在がわかり、そこに行きたいと思わせる計画が必要。	
84	・デザインだけでなく、水生生物や昆虫、植物など生物多様性の創出についても説明が必要。	河川沿いに生息する昆虫や植物、飛来する鳥など、多様な生物がこの場所へ集まれるような自然を活かした整備を進めます。リニアの高架下では生物が生息しづらいことも想定されますが、基本的には河川沿いで多自然型の整備を行いたいと考えております。
85	・千旦林川の流れ軸や横断軸がサステイナブルになるように創出する。	
86	・水辺の自然があれば鳥類も来ると思われるが、テラス周辺で鳥類が休む場所が見当たらない。	
87	・テラスから見ると川へそそり立つコンクリートの壁となってしまっており、直線的すぎて自然を寄せ付けないイメージ。	
【自由通路・みち広場に係るご意見】		
88	・自由通路に木質素材を使用することは良いが、背景の駅舎とも調和した印象でないので、入口、屋根、柱の形状、表情に変化を持たせる。	リニアの駅舎そのものについてはJR東海が整備を行うものであり、現時点でデザインが未定であります。今後、駅舎デザイン等が明らかになってきた時点で各施設のデザイン修正や、それを踏まえた詳細な設計を行いたいと考えております。
89	・単なる木質ルーバーは至る所に事例があり、使い古されたイメージである。	街道の宿場町としてのイメージを木質ルーバーに落とし込んだものであり、この地らしさを表現する一つの手段としてのデザインとして考えております。 木材だけではなく、石材やその他の素材等についても、岐阜県らしさ・中津川らしさを表現する手段として使い方も含めて今後より深く設計検討を進めたいと思います。
90	・自由通路に、コンセプトから導かれるイメージが反映されていない。	
91	・駅は出会いと別れの場であり、ドラマチックな空間が必要である。	
92	・木質は使用されているが、他の素材が効果的に使用されていない。	
93	・床は石材を使用しているが、矩形の板石では特徴に乏しい。	みち広場は、乗り換え機能やイベント時の利活用等も見据えた機能整備を検討しておりますが、周辺環境とあわせてこの地の風景を感じる場所であり、駅から出た所では周辺の自然を感じられる場所であると考えます。
94	・みち広場は直線のみで硬いイメージの空間となっており、もっと自然が入り込みランドシャフトを感じる空間とすべき。	
95	・みち広場の北端はスーパー、コンビニで、南端は線路となっており、シンボル性に欠けるため、この区域の景観形成が必要。	
【美乃坂本駅に係るご意見】		
96	・美乃坂本駅にエスカレーターをつけてほしい。	現在の美乃坂本駅は階段しかありませんが、バリアフリーの観点や大きな荷物を持って移動できるよう、エスカレーターではなくエレベーターを設置することを検討しております。詳細については今後設計を進めたいと思います。
97	・美乃坂本駅について、もっとシンプルで現在の駅舎よりひと回り大きいくらいの建物で充分と考える。	美乃坂本駅舎について、現在の美乃坂本駅乗降客数と、今後の増減の推移を見据えて、必要と考えられる規模を検討しております。
98	・駅舎とキャノピーが一体化していない為、煩雑なイメージであり、建築をもっと軽いイメージとしてほしい。	駅舎とキャノピーはデザインとして一体感を持つよう、素材や色合いを合わせるよう検討しております。

99	・美乃坂本駅が、エレベーター、階段の斜度等からみて、南北の道路となっておらず、交通弱者（学生、高齢者等）への配慮がなされていない。軽車両等の通行ができるような道路を作るべきである。	美乃坂本駅の自由通路については、自転車等の軽車両が通行できるように整備することを想定しており、南北方向へ自転車での移動が出来るよう設計を進めることを考えております。
100	・中学生、中津川工業高校生（自転車通学者）の通学路が確保されていない。自転車通学者は三津屋、中平等の踏切を利用せざるを得ないが、茄子川工業団地方面の高校生は自転車通学ができないようになっている。	線路と交差する道路については、鉄道との関係から様々な制約があり、自由に設計を行うことができません。その中で、最も安全であり、利便性を高めることができる手法として自由通路の整備を検討しております。
101	・旧 A コープ（現駐車場）から中央線をまたぎ、自転車に乗って降りられるような傾斜の道路を作り、美乃坂本駅付近だけは階段とエレベーターにすべき。	
102	・高齢化してくると、自動車免許の返納等により、自転車等で出かける可能性が多いと思われるので、自転車で通れる道路を確保してほしい。	
103	・現有の県道の踏切を閉鎖せず、当面はそこに残して県道美乃坂本停車場線として県が管理する方法が一番安くてよい方法だと思う。	
104	・中央本線を跨ぐ南北の行き来が不便になっている。	
105	・リニア新幹線利用者の多くは、キャリアバック等の大きな荷物を持つての乗車となると思われるが、美乃坂本駅のエレベーターで昇降してから、リニア駅まで行かなければならない。	美乃坂本駅から降りて、歩行者が最短距離の動線で移動できるよう駅前広場整備を行いたいと考えております。
106	・現在、美乃坂本駅南側の公衆トイレは、市が設置し、維持管理を「まちづくり協議会」で行っています。公衆トイレはリニア側の広場には必要なく、それぞれの施設で運営できるトイレを作れば良いのではないか。	トイレの設置については、必要な箇所への整備を考えておりますが、利用者のご意見を伺いながら、具体的な整備や管理について検討を行いたいと考えております。
107	・美乃坂本駅舎の存在感が強すぎて恵那山への眺望が阻害されているため、工夫が必要である。	恵那山への眺望を阻害しないよう、周辺景観になじむデザインとしております。
【エントランスロード・プロダクトに係るご意見】		
108	・星空の綺麗な岐阜の夜空を望めるよう、集中照明で煌々と照らすのではなく、低い照明で演出したい。	駅前広場について、車両や歩行者の安全性を確保する照明を整備する中で、低い照明などもできるだけ取り入れて夜間の景観も大切にしたいと思います。
109	・プロダクトそれぞれが、それぞれのデザインになっているので、デザインコードを決めて統一感あるデザインしてほしい。	プロダクトについて、統一感のあるデザインとしたいと思います。
110	・プロダクトデザインこそ新しいデザイン、手法、素材などに挑戦すべきで、岐阜、中津川の新しい未来を感じさせるデザインしてほしい。	プロダクトについて、地元素材を使用することを基本とする中で、使い方や仕上げなどについて新たなデザイン等への挑戦を含めて検討を行いたいと思います。
【今後の取り組みに係るご意見】		
111	・全体配置計画を実現させる過程で若い人の意見も積極的に取り入れてほしい。	この指針に基づき、地域の方や若い方の意見も取り入れながら、具体化を進めたいと考えております。
112	・若者が参画できるようにしてほしい。	
113	・これから駅を利用し、税金を払っていく若い人らの意見を取り入れてほしい。	デザインブックP62にあるように、今後駅周辺を使うための会議を立ち上げることを検討しており、若い方の参加も積極的にお願ひしたいと考えております。
114	・この場所で地産地消し、地域の事業者が第一に活躍できる場にするのが重要。	この場において、地産地消についても推進したいと考えております。
115	・将来のまちづくりの姿を分かりやすく示すため、都市計画マスタープランの見直しをすぐに始めてはどうか。	まずは、現在の計画について着実に進めることが重要と考えております。 美乃坂本駅の南側については、その後地域からのご意見を踏まえて検討を行いたいと考えております。
116	・在来線美乃坂本駅南側の地域について、問題点や課題の実態を調べ、住民に知らせてほしい。	
117	・駅周辺のデザイン、リニア本線、車両基地への引込線、濃飛横断自動車道、送電線等々を立体的に示した図を作成してほしい。	完成イメージについて、可能な範囲で作成を進めたいと思います。
118	・デザイン計画を実現させるためのスケジュールを他事業との調整行って示してほしい。	今後、他事業のスケジュールと調整しながら、進めてまいります。
119	・ユニバーサルデザイン、DX、SDG s等の観点について、事業計画を考える中で検討しデザインとして反映させるべき。	今後詳細に設計する段階で、検討結果を反映してまいります。

120	・新しい時代の働き方、生き方を具現できるよう、通信網を最先端な物にし、自然再生エネルギーを中心に供給していく姿勢が必要。	駅周辺の通信機能の確保や、自然再生エネルギーの活用について今後も引き続き検討を行ってまいります。
121	・リニア新幹線を利用して来るくらい離れた地域からの観光客を増やすことが必要であり、デザインと同時に観光客の増加についてどうするか考えてほしい。	市の施策として、リニア駅周辺の整備を行うだけでなく、それを市内の観光等へつなげていく取り組みが重要だと認識しております。今後、並行して観光客の増加等について検討を進めます。
122	・リニア岐阜県駅近くに名所五百羅漢があるので、観光スポットのひとつに加えてはどうか。	五百羅漢については、駅に近接した観光スポットであり、今後追加記述したい思います。
123	・景観の保守、防災の話し合いなどを進めてほしい。	この地の景観を守るとともに、防災等についても今後検討を進め、駅周辺を含む防災機能の拡充について検討を行います。
124	・岐阜の自然災害にどのように対応するか、全体環境を持続可能な空間にした防災計画が必要ではないか。	
125	・基本計画のデザインについて、デジタルデータベースを活用し、CG コンテストなどで、さらに個別の具体的募集を行うなど、駅オープンまで盛り上げてゆくことを試みてはどうか。	リニアの開業に向けて、中津川市全体として盛り上げるための企画などを併せて検討していきます。
126	・リニアステーションシティの近未来・自然・社会像と共に、その高度地場産業集積へ、活力ある地元企業や人はもちろん、地元企業や人のやる気を出させるようにしてほしい。	地元企業の活力につながる駅周辺整備となるよう、地域の企業や地元の方などの活躍の場についても検討を行いたいと思います。
127	・当地の伝統を踏まえつつも、情報社会の近未来形として駅周辺を整備し、能力ある方に運営してもらい、グループや組織を育成しつつ、そこに参加される人と各地の観光サテライトが結ばれた、広く有機的な新たな交流文化形の産業集積としてほしい。	この地域の歴史や伝統を大切にしつつ、最先端の情報技術等を取り入れた駅周辺整備を行いたいと考えております。駅周辺のみならず市内外へ繋がり、様々な可能性を持つこの場所について、管理運営等について民間活力の導入可能性を含めて検討してまいります。
128	・リニア時代の新たなプロジェクトとして、交流文化としてのアート・アウトドア・スポーツなど多彩なイベントの総合実施としての会場への入口としてほしい。	
129	・リニア新幹線駅の名称については「リニア美乃坂本駅」を希望する。	新幹線駅の名称については、今後、JR東海が主体となって検討を進めるものと認識しております。
【デザイン検討に係るご意見】		
130	・本駅は岐阜県駅であり、岐阜県や近隣の市を交えて計画を作成すべきであり、又、本来の駅の運営当事者のJR東海の姿が現れていない点も疑問に思う。	本指針検討に際して、デザイン会議においては岐阜県からは恵那土木事務所長、リニア推進室長、リニア推進事務所長、岐阜県立森林文化アカデミー副学長に、恵那市からは建設部長に委員として参加いただいております。また、JR東海の担当課長についても、本会議におけるオブザーバーとして参加いただいております。
131	・NHKなどでの報道では本デザイン（案）で本事業を推進していくとありますが、各所とのコンセンサスが取られているのでしょうか。	最終的な指針を公表させていただく際に、参画いただいた委員名等を掲載させていただく予定です。
132	・本デザイン案作成に参画した委員名、立場などを本書に記載すべき。	負担割合については現時点で関係各所と協議中であり、本指針では明示できておりません。
133	・デザイン実施にあたり先のこととは言え全体事業費の目論見を明示すべきであり、JRの負担、岐阜県の負担、中津川市の負担の割合も併せて明示が必要では。	
134	・確保されていないリニアの安全性、予想されるJR東海の赤字経営、予測される電力の不足等、問題が多いリニア新幹線の岐阜県駅が中津川になったとあって賛成などできず、市はリニアのまちづくりなどということはやめるべきだと思う。	中津川市内にリニアの駅が設置されることについては、まちづくりの重要な機会として捉え、中津川市としてリニアを活かしたまちづくりを進めたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。
135	・同じ税金を投入するなら、コンペ方式で日本中から意見やアイデアを集め、競わせて一つの建築物を作ることで、注目を集めて中津川の認知を高める重要な機会となり、地域活性化へつなげることができる。	今後、各施設の具体的な設計等についてどのように発信し、中津川を知っていただくか、また、どのように地域活性化へつなげていけるかということについて検討を行いたいと思います。
136	・リニア新幹線が開通した折りの人口構造に基づいてデザイン指針を作成することが必要であり、少し中津川市として単独での事業規模が大きすぎるのではないか。	リニア岐阜県駅としての整備を想定しており、中津川市単独での事業としては捉えておりませんが、事業規模等については適正な範囲となるよう検討を進めてまいります。
137	・商業地域として新青森駅の状況などを良く検討する必要があると考えるが、開通ののち何ヶ月かは繁盛もあとと寂れるので出店会社がいるのかどうかの予測はどうか。	リニア駅周辺への出店等に興味のある企業のヒアリング等を行い、民間活力の導入可能性についても今後詳細に調査を進めてまいります。
138	・リニア開通に向けてラグビー場建設計画があるがその点も踏まえて指針作成の必要性を感じる。	駅周辺を含む周辺施設等の今後の計画や整備の推移を踏まえ、社会情勢等の変更に伴って指針の修正変更等を検討してまいります。

139	・将来的に住宅地開発や沿道商業施設が乱立すると眺望景観が遮られたり、岐阜・中津川らしさが失われてしまうので、建物の高さ・色・形状・素材、看板等景観計画を定めておく必要がある。	岐阜県らしさ・中津川らしさといった周辺景観を守るため、リニア駅周辺において今後どのような規制や計画等が必要か、具体的な検討を進めたいと思います。
140	・リニア岐阜県駅周辺デザイン会議は今後も存続されるのか。	今後、リニア駅舎設計やその検討等の進捗を踏まえるとともに、県のブラッシュアップ懇談会の意見等について、それらを反映できるようデザイン会議を継続し、今後も引き続き検討を行いたいと思います。
141	・県のリニア活用戦略ブラッシュアップ懇談会の動きとの連携はとるのか。	
142	・JR東海の方で、今後リニア駅舎の設計を行うと聞くが、その動きとの連携はとるのか。	
143	・今回中間とりまとめとあるが、今後の事業スケジュールはどう考えているか。	
144	・事業費は、いくらを想定されているのか。又維持費は検討されているか	事業費については、持続可能な市政運営の範囲内で国や県などから補助を得ながら整備を進めることとしております。維持管理費用についても、できるだけ抑えることができるよう今後の設計を行います。
145	・完成後の維持管理費用についての考えは如何か。	リニア岐阜県駅の利用者数推計を基に計画検討を行っております。
146	・作成にあたっての駅での乗降客の予測はしているか。	